

## 教員養成系大学における創作ダンスの題材に関する研究 —題材「闇に光を放つ」の実践：ダンス専門，非専門学生を対象に—

### Study of the creative dance at teacher training universities: Practice for the dance performance in the class “Emit Light in the Dark” for students specializing in dance and non-dance

高野 美和子<sup>1)</sup> 宮本 乙女<sup>2)</sup> 笠井 里津子<sup>3)</sup>

*Miwako TAKANO, Otome MIYAMOTO and Ritsuko KASAI*

#### Abstract

The purpose of the study was to clarify the features and differences of how students practice for a dance performance through the dance class “Emit Light in the Dark” and to discuss the effectiveness of the theme. The class was provided to students from three different universities offering junior high and high school PE teacher-training courses. Students specializing in dance and non-dance participated in a creative dance class themed “Emit Light in the Dark.” Immediately after the performance, questionnaires about the class they experienced were distributed, collected, and analyzed. We discussed the effectiveness of the theme from the perspective of the students who participated in the class (review of engagement) and added findings from the analysis of comments in the free answer section of the questionnaire to the discussion. As a result, whether students were specializing in dance or not, many tended to be able to imagine different lights through the theme and find new ideas, movements, and expressions from the process of creating a dance. Also, many noticed changes in their movements and were able to express what they could not perform alone by creating and dancing with friends. Many also thought the three types of music helped them broaden the range of dance movements and images, which verified the effectiveness of the use of several, different types of music. Students specializing in dance tend to focus on imaging the light and actively adopting the music in their activities for creation compared to non-dance students. In general, students, whether they specialize in dance or not, tend to assess their achievement as high for the purpose of the theme. Also, many students gave positive feedback. We obtained results that implied the effectiveness of the theme from the perspective of students who participated in the class.

*Keywords* : Theme of Creative Dance, Emit Light in the Dark, Teacher Training, Physical Education, Learning Contents

#### I. 背景および目的

2012年度より中学校1・2年生の体育においてダンスが必修化し、現場の教師の指導力向上や指導内容についての検討の必要性が高まっている。現在ダンス指導力を伸ばすための講習会や指導内容についての実践的研究など様々な試みがなされ、また教員養成系の大学教育においても将来教師を目指す学生へのダンス指導力の向上を図る授業の取り組みがなされているが、充分ではないという指摘がある<sup>6)</sup>。教員免許を取得する学生は、実際教師になった際に中学・高校にて教え

るダンス学習内容を理解するために、彼ら自身も大学授業の中で自らが将来教えるであろうダンス学習内容の授業を体験し、その内容に即した教授法を学ぶことが望まれる。また、それと共に学生自身がダンスを好きになり、少しでも踊る力を伸ばしていくことが大切である。

学校教育での創作ダンスの授業では、教師は授業の中で生徒につけさせたい力（学習の目標）を念頭において課題を設定し、その課題に合う教材としての題材を授業の中で用いる。そして生徒は授業の中で、題材を通じて課題を解決していくことで学習の目標に近づいていく。創作ダンスの課題については、これまで松本らが、運動の課題、イメージの課題、群構成の課題等、創作ダンスの学習に必要な課題の基本として「課

1) 日本女子体育大学（准教授）

2) 日本女子体育大学（教授）

3) 日本体育大学（教授）

題選択の柱<sup>1)</sup>を設定し、そこから教師が幼・小・中・高・大学の各発達段階や授業の進度に応じた題材を選び、授業展開していく課題学習法を考案しており<sup>2)</sup>、これは今日の学習指導要領における創作ダンスの指導方針の基礎を形づくっている。

この「課題選択の柱」に位置づけられたそれぞれの課題には、ダンスの動きを生徒たちから引き出すための題材があり、例えば運動の題材「走るー止まる」であれば、<猛スピードで走ってぴたっと止まるものにはどんなものがある？>という教師の問いかけに対し、生徒は“忍者”や“通勤ラッシュで落し物した！”などをイメージし、そのイメージに合うメリハリのある「走るー止まる」のひと流れの動きを生み出す。またイメージの題材「雪」であれば、<雪にはどんな雪がある？吹雪？みぞれ？雪崩？>という教師の問いかけに対し、生徒は様々な雪をイメージしてそれをひと流れの動きで表現する。運動の題材でもイメージの題材でも生徒たちは運動とイメージを連合せ多様にイメージや動きを広げ、動きからイメージ、イメージから動きへの行き来を通じて様々なダンス表現を生み出していく。この多様に運動とイメージを連合せひと流れの動きにして踊る力は創作ダンスの技能の基本である。

これまで、大学教育における教員養成課程の学生を対象にした創作ダンス授業実践については、次のような報告がなされている。柴・塩瀬は小学校教員養成課程の創作ダンスの授業を通じて、初めて創作ダンスに取り組む学生たちが創作ダンスへ接近する構造を明らかにし<sup>3)</sup>、松本は保健体育教員養成課程の学生を対象に、創作ダンスの授業を通じて学生の授業課題に対する捉え方や仲間の発表からの気づきについて学生の自由記述から分析している<sup>2)</sup>。また、宮本・中村は体育系大学のダンスを専門に学ぶ学生と非専門の学生を対象に、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス、という学習指導要領が掲げているダンスの学習内容すべてを含んだ指導法授業の試案を作成し、試案を履修した学生の意識の変容を明らかにしている<sup>5)</sup>。さらに筆者らは、教員養成課程の学生に対し松本の「課題選択の柱」にある題材「7 モーティヴス」の授業を通じて題材の有効性を確認している<sup>10)</sup>。しかし、大学生を対象とした題材の開発はまだ充分とはいええず、特に対象とする学生のダンス経験を考慮した題材の開発、学生の実態に合った題材の検討を含めた開発が必要である。

筆者は、「課題選択の柱」の中のイメージから動きを引き出す創作ダンスの題材として、「闇に光を放つ」を2013年から考案し、中学・高校での新しい題材開発のための研究<sup>4)</sup>や、ダンスを専門とする大学生や高校生への指導を通じてその手応えを感じてきた。また、同じ題材を「ダンスを好きにさせ、学生自身の踊る力を高める」指導の研究として、2015年度東京都女子体育連盟の大学研究グループで主に指導者を対象にワークショップを行い、その成果を確認してきた<sup>6)</sup>。

この題材は、創作ダンスの技能である「主題を見つけ対象の観察からそのものの特徴(動き・イメージ)を捉えて体の動きで表す」技能(=デッサン)や「ダンスの動きのフレーズ感(心地よい表現的な動きのひとまとまり)を踊る」技能(=ひと流れ)、「感じ合い、相手の動きに呼応する」技能、「イメージに合わせて多様に動きを変化させて表現を広げる」技能<sup>9)</sup>を対象学生につけさせることをねらいとしている。これらの技能は松本の「課題選択の柱」にあるどの課題にも共通して求められる基本的な技能(=踊る力・創る力)であるが、この「闇に光を放つ」の題材は、創作ダンスの進んだ段階において学ぶことを想定し、「闇の中の光」という抽象的なイメージへも表現が広がることを意図している<sup>2)</sup>。

ダンスを専門とする学生や指導者に向けて実践してきたこの題材が、ダンスを専門としない学生においても有効であろうか。そこで本研究では、中学・高校の保健体育教員養成課程をもつ3つの大学の学生を対象に、学生がダンスを好きになり、彼らの踊る力を伸ばすことを念頭に、イメージの題材「闇に光を放つ」を用いたダンス授業を通して、ダンスを専門とする学生とそうでない学生の取り組み方の特徴や違いを明らかにし、この題材の有効性を検討することを目的とした。

## II. 研究方法

中学・高校の保健体育教員養成課程をもつ東京都内のJ大学、N大学、O大学のダンスを専門とする学生、非専門学生を含む対象学生に、イメージの題材「闇に光を放つ」を用いた創作ダンスの授業を行い、終了直後に体験した授業に対する質問紙を配布し回答を得、両群の違いを分析した。さらに、質問紙の自由記述内容を整理分析した結果も加え、題材を体験した学生の意識(取り組みに対する振り返り)の観点から本題材の有効性を検討した。

## 1. 対象学生

本研究の対象学生は、ダンス専門学生および非専門学生、合わせて123名であり、その詳細は下記の通りである。

ダンスを専門とする学生66名 [ダンス専門群]

- ・J大学ダンス専攻学生41名<3年生：舞踊学演習受講学生>
- ・N大学ダンス部学生25名<1～4年生>

ダンスを専門としない学生57名 [ダンス非専門群]

- ・N大学学生23名<3年生：ダンス指導法受講学生>

- ・O大学学生34名<2～3年生：創作ダンス受講学生>

## 2. 授業の概要

本研究で実践した授業は、「ウォームアップ」、「課題をつかむ」、「創作」、「発表」の構成からなり(表1)、全国ダンス・表現運動授業研究会が提唱する1時間完結学習(「踊る・創る・観る」の体験が1時間に含まれている学習)<sup>8)</sup>をモデルとした。この題材のねらいは、①様々な光をイメージしながら、身体の色々な部分を使って自分たちの見つけたオリジナルな光を自由に

表1 「闇に光を放つ」を用いた授業の指導案

時間	学 習 活 動	指導の要点と言葉かけ
20分	<p><b>ウォームアップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに乗って&amp;色々な質感を含んだ動きのアップ</li> <li>・体の色々な部分を使って空間に落書き(曲線, 直線, 波線 etc)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指先から, 膝から, 肘から, 足から, 頭のとっぺんから, 体の色んなところから空間に落書きしよう。天井に, 床に, 前だけじゃなくて後ろの壁も, 360度いろんな方向に,</li> </ul>
20分	<p><b>課題をつかむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・闇の中に光のイルミネーションを作ろう!</li> <li>・イメージの出し合い</li> <li>・イメージからのデッサン(指導者と一緒に全員で)</li> </ul> <p>★3種類の曲(①ゆったりしたアクセントのない曲, ②アクセントのある曲, ③スピード感のある曲)をBGMに流しながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のテーマは「闇に光を放つ」です。光って闇があるから際立つんだよね。暗闇の中の光には色々あるね。どんなの連想する?今日は真っ暗闇の中において自分の身体の色々な部分から色んな光を放って, 闇に光のラインやイルミネーションを作ってみよう。</li> <li>・身体のどこから?:まず, 両手をぎゅっと握んで, 高速で摩擦!ゆっくり離していく間に手のひらから光が生まれたよ。その手を色々動かして, 暗闇に落書きしてみよう。今度は肘の先から細い光が..., 足の裏から, 尾てい骨から, 他にどこから光が出る?好きな身体の部分から。〇〇から出ているのかな?</li> <li>・どんな光?:流れるような?ギザギザ?素早い, 巨大な火の玉?ドラゴンボール・ビーム!!!温かい-冷たい?強い-柔らかい?</li> <li>・どんな関わり?:光の方向を目で追ってもいいし, たどってもいいよ。光が身体の中を通過して出ていく!光を灯す, 消す?自分から放つ光だけでなく, 他の人の放つ光を感じて関わってみよう。</li> </ul>
20分	<p><b>創 作</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人組になって, 自分のイメージした光を出し合い, ホワイトボードに書く</li> <li>・3人組みでリーダーに続け</li> <li>・リーダーの真似</li> <li>・リーダーの真似をしながら関わる</li> <li>・グループで短い流れを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間移動しながら1番さんの動きを真似をしてみよう。2番さんに交替!3番さんまで</li> <li>・今度はリーダーに続くけど, リーダーの真似をしながらもリーダーの光りを受け止める, よける, 反撃!いろいろ関わってみよう!交替 光が体の中を通過していくのもいいね。</li> <li>・お互いにどんなイメージが湧いたか, 面白かった動き, 印象的だった動き等感想を言い合って。良かった動きを繋げて短い流れを作ってみよう(3人の関わる動きも入れて)。3曲のうちどの曲で発表するかも決めてね!</li> </ul>
10分	<p><b>発 表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1曲ごとに選んだグループで発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は呼吸を感じあって, 見る側はどんな光か想像しながら見よう。</li> </ul>

表2 質問紙の質問内容

質問項目	質問	回答方法
イメージの発現とイメージと動きの関わりについて	「色々な光を沢山イメージすることができましたか」	<とてもそう思う・思う・思わない・全く思わない>から選択
	「踊っている間、途中で気が散ることなく光のイメージに集中して踊れましたか」	
	「色々な光のイメージによって踊り方の幅が広がりましたか」	
	「ダンスの最中に浮かんだイメージを書いてください」	自由記述
動きの開発について	「体の動かし方に新たな発見がありましたか」	<とてもそう思う・思う・思わない・全く思わない>から選択
	「今までやってきた題材と違う動きや踊りができましたか」	<はい・いいえ>から選択
	(上記の質問に続き)「はいと答えた方はどんな動きや踊りか書いてください」	自由記述
仲間との関わりについて	「仲間と関わることで自分の動き方に変化が生まれましたか」	<とてもそう思う・思う・思わない・全く思わない>から選択
	「仲間と関わることで一人ではできない表現が生まれましたか」	
使用曲について	「今回使用した曲は動きやイメージを広げる助けになりましたか」	<とてもそう思う・思う・思わない・全く思わない>から選択
	「今回使用した曲のうち、①～③ではどの曲が踊りやすかったですか」	<①ゆったりしたアクセントのない曲 ②アクセントのある曲 ③スピード感のある曲>から選択
	(上記の質問に続き)「その理由を書いてください」	自由記述
題材の難易度について	「今回のダンスを難しいと感じましたか」	<はい・いいえ>から選択
	(上記の質問に続き)「難しいと感じた方はどこに難しさを感じたか書いてください」	自由記述
グループ発表の感想について	「他の人の発表をみて感じたことを自由に書いてください」	自由記述
題材を行った感想について	「今回のダンスを踊ってみた感想を自由に書いてください」	自由記述

デッサンすることができる、②仲間とイメージを共有しながら関わって踊ることができる、と設定した。授業の「課題をつかむ」(イメージからデッサン)の場面と「創作」の場面に3種類の曲(①ゆったりとしたアクセントのない曲、②等間隔にアクセントの入ったミディアムテンポの曲、③スピード感のある曲)をランダムに流し、「創作」時間の際に、グループ発表で流す曲を3曲(①～③)の中から1曲選ぶように指示した。

- ・実施期間：2016年7月
- ・場所：3大学の体育館
- ・指導教員：J大学教員1名(J大学とO大学学生への指導)  
N大学の教員1名(N大学学生への指導)

### 3. 質問紙の質問内容

質問紙の質問は、授業のねらいに対する受講生の取

り組みを彼らの振り返りから調査するため、この題材から多様にイメージを持つことができたかどうか(イメージの発現)、様々な動きを見つけることができたか(動きの開発)、見つけたイメージを動きにすることができたか(イメージと動きの関わり)、仲間とイメージを感じ合いながら踊ることができたか(仲間との関わり)、仲間の発表がどうであったか(発表を視た感想)についての質問からなり、その他に、使用曲についての質問、題材の難易度についての質問、学生がこの題材や題材を通じてダンスをどう受け止めたかを調べるために、題材に対する感想を加えた。質問および回答方法の詳細は表2に示す通りである。

### 4. 結果の処理方法

対象の123名から回収した質問紙の回答を集計、分析した。イメージの発現、動きの開発、イメージと動きの関わり、仲間との関わり、使用曲については、4件

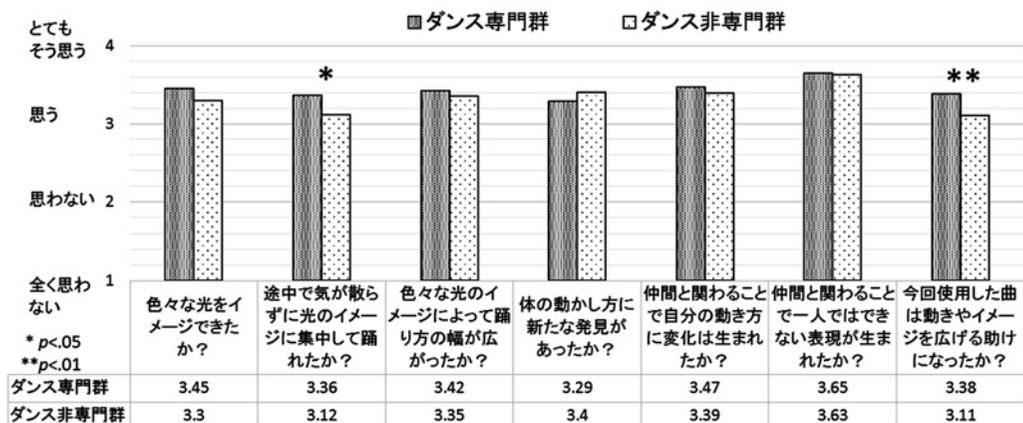


図1 題材に対する2群間の反応の比較

法の質問（4点…とても思う～1点…全く思わない）で回答を求め、それぞれの平均値について、ダンス専門、非専門間で回答選択に違いがみられるか、平均値の差の検定（t検定、有意水準5%）を行った。また授業の感想および題材から得られたイメージ等の自由記述の回答については、KJ法に基づき共同研究者2名（評定者）で分類、整理を行った。

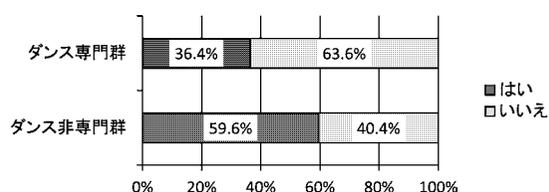


図2 今回のダンスが難しかったかどうかの質問に対する回答結果

### III. 結果と考察

#### 1. イメージに関する質問について

多様に光をイメージできたかどうかの評定（「色々な光をイメージすることができましたか」という質問）では、ダンス専門学生が3.45、ダンス非専門学生が3.3であり、両群とも色々な光をイメージできたと感じている傾向がみられた（図1）。踊りながらイメージした光については、「花火（ダンス専門群、以降<専>と示す）（ダンス非専門群、以降<非>と示す）」、「月の光<専>」、「蛍の光<専><非>」、「灯台<専>」等の生活の中で知覚できる具体的な光から、「幻想的な光<専>」、「静かな光<非>」、「オーラ<専><非>」、「希望の光<非>」等、実際に目に見えない抽象的な光まで様々な光のイメージを記載していた。また、「光を奪い合う<専>」、「闇に飲まれている感じ<非>」等、光との関わりや状況を伴うイメージ、物語、構成を含むイメージもみられ、両群とも多様な光をイメージしていたことがわかった（表3）。

次に、イメージに集中して踊れたかどうかの評定（「踊っている間、途中で気が散ることなく光のイメージに集中することができましたか」という質問）では、

ダンス専門群が3.36、非専門群が3.12であり、両群とも集中して踊れたと感じる傾向にあるが、ダンス専門群が非専門群よりも有意に高い値を示しており、ダンス専門群の方がより集中して踊ることができていたと考えることができる（図1）。また、この題材に対する難易度についての回答（図2）をみると、難しいと感じている学生の割合はダンス専門群の方が非専門群より低く、ダンス専門群は非専門群より難しさを感じずに題材に取り組む傾向がみられた。このことはダンス専門群が非専門群よりも集中できたことと関連している可能性が考えられる。さらに、題材の選択に関して、中高生の初心者にはまずダイナミックな動きを引き出す短いひと流れの題材が推奨されている<sup>3)</sup>ことから、今回の様にゆっくりとした動きから始まり少し長い時間気持ちを保って踊るひと流れは、ダンスを専門としない大学生にとってもやや難度の高い題材であったと考えられる。

イメージによる踊りの幅の広がりに関する評定（「色々な光のイメージによって踊り方の幅が広がりましたか」という質問）では、ダンス専門群が3.42、非専門群が3.35であり、両群とも色々な光から踊りの幅

表3 学生から出たイメージ

( ) 内：同一内容回答数

	ダンス専門群	ダンス非専門群
様々な光・連想される事柄	<p>自分の体内から光が放出されていくようなイメージ            光が消えたり生まれたり跳ねたり転がったりする 丸い光が粉のように弾ける            身体の中で光が動く(2) 流星が身体の内側から出ている ぼぼと光る            光の大きさが変化する(2) 手先、足先から光が出てきた            ぼやっとした光がいなくなったり突然現れたりする 体の中から浮かんで行く光            体の中を光が走る 切れそうなチカチカしたライト パチパチな光車のライトが高速で動く 丸い光が弾んでいる ボールのような光(2)            凄く強い光 点滅するぼぼとする光(2) シュッと投げられるような光            火の玉などの光が飛んでふわふわしている(2) 物質が光を放っている            すばやい光の移動 レーザービーム 光線 光の中にある空間            光が飛び交っている ふわふわ支えていないと消えてしまう            丸い風船のようなふわふわした光 ぼやっとした光 いんげん電球から放つ光の遊び            花火 海の光 ぼーっとした光(2) 火の玉 灯台            夜空に浮かぶ星(3) 田舎の田んぼの上の星空 流星            チカチカ光る光 蛍の光(4) 太陽から出る熱い光 月の光(3) 暗闇動物から放つ光 味がある光 重いより軽い ゆっくりした光の波            鋭い光の線(2)            暖かい光(2) 冷たい光 やわらかい光(2) 硬い光(2) 幻想的な光            穏やかな光 作り出せる光 集められる光 投げられる光 消える光            カルシファー(2) 火種 ネオン こだま(ジブリ) クラゲ(2)            深海魚            ろうそく カメハメハ 静電気 やり 電灯イルミネーション</p>	<p>ゆらゆらと漂う光 火の玉 ちょうちんあんこの頭の光            左右折のランプだったりハザードランプなど車のランプ            光は膨らみがあることによって目立つ 光が集まって放たれる感じ            パチパチした大きい光から小さな光まで            希望の光 花火(2) 花火大会 深海の中の光            ふわふわした感じ スピード感あふれる感じ            強い鋭い光            大きい光 ぼやぼやした光 また闇に行ってしまった ホタル(2)            自由に飛びまわるホタル 集まって飛び散る光            海や川 夏 星の光 ねこの目 ビルの光            東京タワー 祭 ハリーポッター(2) 宇宙            蛍光灯            光が飛んでいっちゃう 目でも追えないようなとにかく速い動きの光            静かな光 優しい光 まっすぐな光 ちょうちんあんこう 星            怖さ不気味さ 心から思う気持ち オーラ            暖かい光 戦い 妖精            明るい未来に向かう感じ 夢 花 食べ物            汚いもの            カメハメ波ー!! ・ダイナミックに動く光</p>
自分と関わる光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光を追いかけている</li> <li>・自分で光を起こし、それが体中もあるイメージ ・光の線が出てそれを操っている</li> <li>・光が遠くにあるそれを拾うイメージ ・外の光を探す ・光をのばしたり縮めたり</li> <li>・光に手を伸ばしてもなかなか届かないイメージ ・ジャンプ水が落ちるイメージ</li> <li>・人一倍努力しないと光を掴むことができない人と簡単にできてしまう人</li> <li>・自分にとって大切な光をイメージし投げると消えてしまう光</li> <li>・光を食べられる!(2)</li> <li>・みんなで熱光で遊んでいて光の取り合いをする</li> <li>・光を独り占めしたい、奪い合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルや花火という美しいものを前にしたら嫌なことがあっても希望が見えてくる</li> <li>・光を徐々に大きくしていく</li> <li>・闇に飲まれている感じ</li> </ul>

- ・ティンカーベルに粉をかけてもらい身体が軽くなりどこかへ飛んで行く。しばらくしたら3人で集まって線香花火になる
- ・体の中で生まれた光が筒状の物から球体状変わりその光を大切に最後まで
- ・ボールの光からそれを粉になったりの上になったり変形する光
- ・小さくなったり大きくなったり弾けたりまとまったりとさまざまに変化する光
- ・ランドセルはおじいちゃんおばあちゃんからもらった思い出のもので大切なランドセルというイメージ
- ・とても速い光が8東風に飛んでいって途中で散ってはまた1つの大きな塊によっての繰り返しのイメージ
- ・光が集まって行きその光を出して飛ばしたりして遊んだ
- ・球の光が突然なくなり探す光がないと自分がどこにいるのかもわからないその光を見つけて大切に作る
- ・光を放つだけでなくオーラともなりそのオーラを放つ人は時に重さを感じることもあり、光は消えることもある

- ・静かな暗闇の中で墓参り中に鬼火を見てしまう、そのうち呪われ鬼火をつかみ食べてしまう
- ・まだ見たことのない蛍を見つけられ探している人に捕まえられないように逃げている
- ・自分の中にある光を外へ出して行き仲間を送るイメージ
- ・闇の中から仲間と出会い明るくなって目覚める
- ・暗い中であつた少しの光を見つけて掘ってみると、空を飛ぶ美しい光が見つかった
- ・光を見つけて探して追って光を使うんだけど元の世界に戻してあげる
- ・動きの速さや大きさや強弱

が広がったと感じる傾向がみられた(図1)。また、グループ発表を観た感想(表4)に、「グループごとにいろいろなイメージがあつて面白かつた<専>」、「光の動きは班によって様々で面白かつた<専>」、「人によってイメージが全然違ふ<非>」、「同じテーマで全く違つた動きとか構成が見れて面白かつた<非>」等、様々なイメージや動きが現れていたことを示すコメントが両群にみられ、この題材を通じて両群の学生が多様なイメージから様々な動き、踊りを生み出すことができていたことを示唆する結果が得られた。

以上、イメージに関する質問から、ダンス専門群、非専門群共に高い割合の学生が、多様なイメージの発現、イメージに集中して踊ること、イメージから踊りの幅を広げることについて、それらを実現できた傾向が示された。このことは、多様な光のイメージから身体の色々な部分を使って自由にデッサンすることができる、という本題材のねらいに近づくことができたことと推測でき、題材の効果と捉えることができよう。

## 2. 動きに関する質問について

体の動きの新たな発見についての評定(「体の動かし方に新たな発見がありましたか」という質問)では、ダンス専門群が3.29、非専門群が3.4であり、両群とも体の動かし方に新たな発見があつたと感じる傾向がみられた(図1)。また、グループ発表を観た感想(表4)には「新しい発想や動きの発見につながつた<専>」、「自分らが思いつかなかつた動きがあつて参考になつた<非>」等のコメントもみられ、両群のかなりの割合の学生が授業を通じて新たな体の動かし方を見つけ

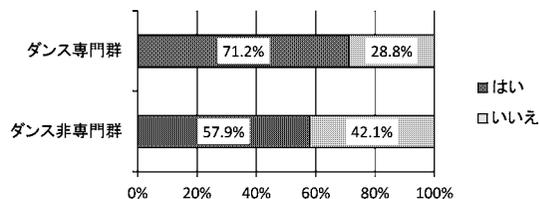


図3 今までと違う動きや踊りができたかどうかの質問に対する回答結果

られたことが推測できる。

次に、「今までやってきた題材と違う動きや踊りができましたか」という質問に対しては、「はい」と回答した学生がダンス専門群で71.2%、非専門群で57.9%、「いいえ」と回答した学生がダンス専門群で28.8%、非専門群で42.1%であり、両群とも今までやってきた題材とは違う動きや踊りができたことと回答する学生の割合の方が高かつたが、「いいえ」と回答する学生も僅かでないことがわかつた(図3)。この図3の結果に加え、図1の「体の動かし方への新たな発見があつたか」という質問に対しては両群とも高い割合で「そう思う」と答えていることから、体の動かし方への新たな発見はあつたものの、同じような動きや踊り方になつてしまつたと感じる学生がいたことが推測できる。この題材を通じて新たな動きのポキャプラリーを体験させ学生自身の動きの引き出しを増やすことが学生の踊る力をつけることにつながるため、創作過程において、指導者はく発見した新たな体の動かし方を生かして動きを作ってみよう等の言葉がけや具体的な指導法を今後検討する必要がある。

一方、今までやった題材とは違う動きや踊りができ

表4 グループ発表を観た感想

( ) 内：同一内容回答数

	ダンス専門群	ダンス非専門群
多様なイメージと動き、発想	<p>グループそれぞれ個性があってよかった。(6)</p> <p>グループごとにいろいろなイメージがあって面白かった。(14)</p> <p>光の動きは班によって様々で面白かった。(8)</p> <p>新しい発想や動きの発見につながった。(7)</p> <p>感性豊かだと思った。</p>	<p>個性があってよかった(3)</p> <p>人によってイメージが全然違う(テーマは一緒なのに、)(7)</p> <p>同じテーマで全く違った動きとか構成が見れて面白かった。(16)</p> <p>自分らが思いつかなかった動きがあって参考になった。(6)</p> <p>とても豊かな作品で面白かった。</p>
構成、表現の手法、効果	<p>それぞれの光のイメージが伝わってきて面白かったです。(5)</p> <p>ストーリー性があるのは面白かった。(3)</p> <p>ストーリーを広げていって光を1つのもので捉えることもできるんだなと感じました。</p> <p>空間をうまく使っているところが面白かった。(2)</p> <p>流れが面白かった。</p> <p>やはり見えない光が見ている人にみえるチームが面白かった。</p> <p>光が見えた。</p> <p>空間や流れを変えているところがよかった。</p> <p>光と人の関係だけではなく人そのものが光になっていたり変化があって面白かった。</p> <p>スピリチュアルなイメージのところが多かった。</p> <p>勢いのある光と緩やかな光があった。</p> <p>手を使って光の移動を表していることが多かった。</p> <p>何が手の先に見えるのだろうかとのグループも見て思いました。</p> <p>インプロのなのに作品を見ているようだった。</p> <p>いろいろな場所から出る光を表現するのが難しいように感じた。</p> <p>世界観をしっかりしていないと見ていて面白くない。</p>	<p>表現力が凄いところは本当に光が見えるような気がして引き込まれる。</p> <p>どの班も構成が上手かったと思う。(2)</p> <p>みんなイメージしたものの特徴よく捉えていた。</p> <p>どの班もテーマをしっかりと表現していてよかった。(5)</p> <p>今までよりみんな表現が上手くなっていて伝わりやすかった。</p> <p>笑が生まれるダンスはとてもよかった。</p> <p>ホテルにユーモアがあって面白かった。</p> <p>光だけに動きが早い。</p> <p>光が見えた。</p> <p>体全体で表現することで光が表現できる。</p> <p>明るさ暗さも動きの大小で表現できる。</p> <p>どの班も苦勞したのだなと思いました。</p> <p>人の考えが出るのがダンスだと率直に感じた。</p> <p>仲間との連携が面白い。</p> <p>人と人との関わりを持ったイメージの幅が広がると思った。</p> <p>グループ一つ一つがまとまりがあった。</p>
曲との関係	<p>同じ曲でもやっていることがかさねらずグループそれぞれの動きができており面白かった。</p> <p>その曲のイメージがいろいろあるなと感じました。</p> <p>リズムを早く取ったりゆっくり動いたり進展に変化があると面白い作品に感じられた。</p> <p>曲のテンポにあった踊りがそれぞれできていた。</p> <p>曲のイメージで全く違う雰囲気になると思った。</p> <p>曲によって動きが変わることがわかりました。そして見えかたも変わりました。</p> <p>③曲目おの人たちはダイナミックなだけでなくアクセントが強かった。</p>	<p>同じ曲でも全く別の作品になる素晴らしさ。(2)</p> <p>曲調に合わせてうまく表現できていた。</p> <p>ゆったりした曲だと光がぼわぼわしてみえた。</p>

たと答えた学生に対して、どんな動きができたかを質問したところ、両群とも様々な動きの記載があり(表5)、KJ法により分類した結果、体から発する光の動き、仲間と関わった動き、光を様々に変化させた動き、具体的な光のイメージの動き、色々な動き・質感を含む動き、題材の表現方法にこだわった動きの6パターン

に分類することができた。

以上のことから、他の題材とは違う動きができなかったと感じる学生がいたものの、両群とも高い割合の学生が、自身の踊りやグループの発表を通じて新たな体の動かし方を発見することができ、新たにできた動きには多様な広がりがあることがわかった。このこ

とは、光のイメージから様々な動きを生み出せるということ、学生自身が実際に自分で踊ること、あるいは仲間の踊りを見ることで体得できていたと読み取ることができる。またここから、学生たちが本題材のねらいである、イメージから多様に動きを広げてデッサンすることを習得できた可能性が示され、この題材の有効性が示唆された。

### 3. 仲間と踊ることに関する質問について

仲間との関わりと自分の動きについての評定(「仲間と関わることで自分の動き方に変化が生まれましたか」という質問)では、ダンス専門群が3.47, 非専門群が3.39であり、両群とも高い値であった(図1)。また、仲間と関わる表現についての評定(「仲間と関わることで一人ではできない表現が生まれましたか」という質問)でも、ダンス専門群が3.65, 非専門群が3.63と両群とも高い値であった(図1)。さらに、今までやった題材とは違うこの題材を通じて新たに取り入れられたと思う動きについてのコメントに、「集団で1つの光を持ってうごけた<専>」、「人と絡む動き、1人ではできない動き<専>」、「3人で同じ動きをしているとおもいきり力になる<非>」、「全員でタイトルにあった動き(役を決めて)をする<非>」等、仲間との関わりによって生まれた動きについてのコメントがみられた(表5)。

以上の結果から、ダンス経験に関係なく、高い割合の学生が今回の題材において仲間と関わることで動き方、表現に普段とは異なる一人ではできないダンスを

経験することができたと感じていることが示唆された。このことから、両群の多くの学生たちが、仲間とイメージを共有しながら関わって踊ることができる、という本題材のねらいを達成できていたと捉えられ、題材の効果を確認することができた。

### 4. 使用曲に関する質問について

「今回使用した曲のうち①～③ではどの曲が踊りやすかったですか」という質問に対し、対象学生全体で見ると、②の等間隔にアクセントの入ったミディウムテンポの曲を選んだ学生が多かったが(図4)、その理由として、両群ともに、「自分たちの選んだイメージに合っていたから」、「動きにも変化を付けやすいから」、「曲のアクセントを利用できる、アクセントに助けられるから」が多く挙げられた。①のゆったりしたアクセントのない曲を選んだ理由としては、ダンスを専門とする学生たちのみから出たものに、「自分たちでリズムを作れるから、音にふりまわされないから」が多く挙げられた。これは、曲のリズムや音に依存せずに踊ることが可能なダンス専門学生特有の回答ではないかと

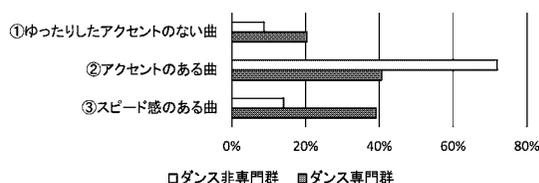


図4 どの曲が踊りやすかったかについての質問に対する回答結果

表5 この題材を通じて新たに取り入れられたと思う動き

( ) 内：同一内容回答数

	ダンス専門群	ダンス非専門群
光が体から発せられる動き・体の部分を使った動き	<p>肘から光を放ったりなど体の様々な所からアプローチすることができた。</p> <p>光の中にも直線的なものやふわふわとした優しい光などたくさんの種類の光があるのでいろいろな部位を使ってやってみた。</p> <p>足の裏から光を放つこと、口の中に怒りを入れる。</p> <p>鼻から光が出てくる。</p> <p>手から光が出ているなど手を中心にした動き。</p> <p>今までは外見だけで動いていたけど体の中で光が動く様子を表現できた。</p> <p>体から光を発する動き。(2)</p> <p>自分の体から勢い良く光が発射される動き。</p> <p>体の部分を意識した動き。</p> <p>両手との関わりを考えて踊れた。</p>	<p>体内から光を出しているような時の動き。(2)</p> <p>手を振りながら光を表現する。</p> <p>光らせたい部分を強調するように心がけた。</p> <p>手のひらをピカピカさせる動き。</p>

仲間と関わる一人ではできない動き	<p>1人ではできない動きで3人でやることによってその光を触った瞬間に爆発したようなイメージの動きができた。</p> <p>集団で1つの光を持ってうごけた、光をボールみたいに地面について遊んだ。</p> <p>仲間と光を取り合うことや光を違った形で表現できた。</p> <p>人と絡む動き、1人ではない動き。</p>	<p>メンバーとの関わる面で特にできたと思う。</p> <p>3人で同じ動きをしているとおもいきり力になる。</p> <p>全員でタイトルにあった動き（役を決めて）をする。</p> <p>人から光を放つと言うことで実際には見えないけど、デッサンしたときにどう光っているのかグループで工夫できた。</p>
光を様々な変化させた動き	<p>自分で光を作りそこから様々な光へと変化していく様子を表現することができた。(2)</p> <p>光を変化させる動きを作ることができた。</p> <p>自由に想像できるので同じ光でも質感を変化させるイメージを持った。</p> <p>硬い柔らかい分割する形を作り出す等を1つのテーマに詰め込んだ。</p> <p>食べたり、吸い込んだり、吐き出したりするようなイメージ。</p> <p>視点にも気を使ったり速度を変えた。</p> <p>光の加減で身体の使い方が変わった。</p>	<p>光が集まったり飛び散ったりするイメージを体で表現できた。</p> <p>たくさんの動きを取り入れることができた。個人→グループ、ゆっくり→速く。</p> <p>きゃびきゃびと元気な感じではなく緩やかな雰囲気から激しくなる感じ。</p>
具体的な光のイメージの動き	<p>光の具体的なイメージの動き。(4)</p> <p>光のイメージに反応してうごけた時にいつもはやらないアクセントが出た気がする。</p> <p>光を追いかける動きから発展した。</p> <p>ティンカーベルのようなふわふわしたイメージ（の動き）。</p> <p>光を背負ったりした。</p>	<p>光の独特な特徴をいかした動き。</p> <p>最後に背中だけ希望のイメージを伝えなくてはいけなかったのも、どう見えるのか考えたり見たりして作った。</p>
色々な運動、質感を含む動き	<p>きれいだけではなく面白さも取り入れて動いていた。</p> <p>コメディークックやユーモアな動き作品のストーリーだったので演技大半の動きや踊りになった。</p> <p>自分の個性を出してしなやかさと強さを兼ね備えた動きができた。</p> <p>体をひねる、角度を変える（動き）。</p> <p>俊敏な動き。</p> <p>繊細な動き。</p> <p>ゆっくりした動き。</p> <p>力強さ。</p> <p>コンテっぽいイメージの踊り。</p> <p>何かを想像しながら踊ることでそのモチーフに対する質感の動きができた。</p>	<p>今まではゆったりした動きが多かったが、こんなにも躍動感のある動きは初めて。</p> <p>今までは使っていないところを使ってみた。</p> <p>躍動感！スピード感ここまでならなかったと思う。</p> <p>パッと一気に体を大きくすること。</p> <p>少し切なさも秘めたような動き。</p> <p>鋭さ。</p> <p>ゆるやかな動き。</p> <p>なめらかに動くことができた。</p> <p>流れるような感じ。</p> <p>転がる動きを多く取り入れた。</p> <p>高低、回転がある動き。</p> <p>体を大きく使うこと。</p>
題材との関わり方、表現方法にこだわった動き	<p>自分にしか見えない光を作り出し、それと関わり方を重視したのでさらに自分の世界に入りこめた。</p> <p>途中で気が散ることがなく自分の体だけに任せて踊っていたら、自分でもやったことのない踊りをしていた。</p> <p>踊るという事だけではなく表現するというところに重点を置いてやった結果、普段ではない動きができていた。</p> <p>その空間で想像して動くことができた。</p> <p>光に対して自分がどう関わるかを考えた。</p> <p>1つのものを突き詰めてそこから広がっていく動き。</p>	<p>1つのテーマに対して自分の中である程度のストーリーをつけながら動くということが新しくなった。</p> <p>物語性を持たせてやってみた。(2)</p> <p>2つのダンスがメリハリよくダンスになっているイメージ。</p> <p>光を表すために柔軟性やスピードの違いを表せた。</p> <p>高低差を表現した。</p>

表6 選んだ曲が踊りやすかった理由

( ) 内：同一内容回答数

	ダンス専門群	ダンス非専門群
①曲目	自分たちの選んだイメージに合っていたから。(5) 自分たちでリズムを作れるから、音にふりまわされないから。(9)	自分たちの選んだイメージに合っていたから。(5)
②曲目	自分たちの選んだイメージに合っていたから。(8) 曲のアクセントを利用できる、アクセントに助けられるから。(5) アクセントがあると動きにも変化を付けやすいから。(12) アクセントがあることで動きのきっかけになるから。(4) メロディーになっていたため踊りやすかったから。(3) 曲の不思議な雰囲気から見ている人は何だろうと考えてくれそうだから。	自分たちの選んだイメージに合っていたから。(15) アクセントがあると動きにも変化を付けやすいから。(9) アクセントがあることで動きのきっかけになるから。(6) メロディがあってイメージがつかみやすかったから。
③曲目	曲に乗って流れ・速さを感じながら動けたから。(8) 変化のある動きができたから。(7) 自分たちの選んだイメージに合っていたから。(6) 普段からテンポの速い曲で踊ることが多く慣れているから。	自分たちの選んだイメージに合っていたから。(6) テンポに乗りやすいから。(2) 自分たちの選んだイメージとは逆のアップテンポの曲を取って選んでみたから。

考えられる。また、③スピード感のある曲を選んだ理由では、ダンス専門群で「曲に乗って流れ・速さを感じながら動けたから」、「変化のある動きができたから」が多く挙げられ、テンポの速い曲に乗って踊ることや、変化をつけて踊ることが可能なダンス専門学生の特徴的な結果と思われる。3曲に共通したコメントとして、「自分たちの選んだテーマやイメージに合っていたから」という答えが多くみられた(表6)。

次に、使用曲と動きやイメージの関係についての評定(「今回使用した曲は動きやイメージを広げる助けになりましたか」という質問)では、ダンス専門群が3.38、非専門群が3.11であったが、ダンス専門群の方が非専門群より有意に高い値を示しており、ダンス専門群の方がより使用した曲が動きやイメージを広げるのに役立つと感じる傾向が示された(図1)。曲に乗って動くことや曲のアクセントを利用して動く等、表6のダンス専門群特有のコメントも合わせてみると、ダンスを専門とする学生は、動きだけでなく、曲の刺激も上手く取り入れながら、創作活動を行っていることが示唆された。

以上のことから、曲の使用に関して両群の学生たちに共通していえることは、3種類の曲が両群の学生たちのイメージや動きを広げる助けとなり、彼らの踊り

に合うものであったことが示唆され、種類の異なる曲を使用することの効果を確認できた。

## 5. 題材の難易度について

今回の「闇に光を放つ」というイメージの題材を用いたダンスに対して、ダンス専門の学生は難しい36.4%、難しくない63.6%、ダンス非専門の学生では難しい59.6%、難しくない40.4%であり、ダンスの専門でない学生には難度の高い題材であったと考えられる(図2)。どこに難しさを感じたかの質問に対しては、「光を体で表現するところに難しさを感じた<非>」、「見えない光をどのようにして見ている人に見えるようにするか<専>」、「目に見えない光という抽象的なものをみんなに伝えるように表現するのが難しかった<非>」等の回答が両群に目立ち、「光」という具象から抽象まで広がる、形のはっきりとしないもののイメージからダンスを創作することに難しさを感じることが示された。また、非専門群からは「あまり動きがなく考えつかなかった」、「流れの作り方(が難しい)」、「恥ずかしい思いを打ち切るのが難しい」等のコメントがあり、やや長めの時間気持ちを保って踊ることは、非専門群の学生にとっては容易でなかったことが読み取れる(表7)。このことから、今回の題材は、

表7 題材が難しかった理由

( ) 内：同一内容回答数

ダンス専門群	ダンス非専門群
<p>見えない光をどのようにして見ている人に見えるようにするか。(8)</p> <p>本当に光があるわけではないからイメージしながら集中するのが難しかった。</p> <p>想像力がないと難しいと思った。(3)</p> <p>1つの光ではなく様々な光を想像するのが難しかった。(5)</p> <p>光というワードが広すぎて定められなかった。</p> <p>光と自分をどう関係づけるか。</p> <p>イメージを大切にしないと自分の動きになってしまう。</p> <p>どこから光が放たれているのか。</p> <p>正解がない。</p> <p>自分が想像している光と他人の想像している光を組み合わせるのが難しかった。</p> <p>人と関わり踊りをつなげること。</p> <p>空間の使い方、どう関わるか。</p>	<p>光を体で表現するところに難しさを感じた。(14)</p> <p>目に見えない光という抽象的なものをみんなに伝えるように表現するのが難しかった。(3)</p> <p>あまり動きがなく考えつかなかった。(4)</p> <p>個々のイメージをグループで共有して作り上げると言うこと。(2)</p> <p>光のイメージが難しい。</p> <p>自分の体から発するというのに難しさを感じた。他から光をもらうとかは踊りやすい。(2)</p> <p>1から自分たちで考えながら行ったから。</p> <p>「闇に光を放つ」というテーマに難しさを感じた。</p> <p>人と合わせて動くところ。</p> <p>自分の発想と人の発想を繋げること。</p> <p>流れの作り方。</p> <p>音に合わせて体を動かすこと。</p> <p>恥ずかしい思いを打ち切るのが難しい。</p>

創作ダンスの学習において内容的に進んだ段階の題材であったといえる。

### 6. 他の人の発表を観て感じたことについて

他の人の発表を観て感じたことについての自由記述では、「グループごとにいろいろなイメージがあって面白かった<専>」、「同じテーマで全く違った動きとか構成が見られて面白かった<非>」等、両群とも「光」というイメージから多様なダンスが生まれ、グループごとに発想、表現が違い面白かったという内容のコメントが多くみられた。また、「それぞれの光のイメージが伝わってきて面白かった<専>」、「どの班もテーマをしっかりと表現していてよかった<非>」等、表現の効果についてのコメント、曲との関係について、「同じ曲でも全く別の作品になる素晴らしさ<非>」、「そ

の曲のイメージがいろいろあるなど感じました<専>」等、曲の捉えかたも多様に広がっていることを示すコメントがみられた(表4)。このことから、実際の発表において、題材を通じて様々なイメージが広がり、そのイメージにふさわしい動きや踊りが展開されていた、言い換えれば、題材のねらいに沿ったダンスが実現されていたことを読み取ることができ、この題材の有効性が示されていると考えられる。

### 7. 今回のダンスを踊ってみた感想について

今回のダンスを踊ってみた感想としては、難しいと感じながらも、多くの学生が「光というテーマの中で創作することが楽しかった<専>」、「体を全て使って表現することの楽しさを学べて良かった<非>」、「新しい動きを見つめることができた<専>」等、ポジティ



写真1 ダンス非専門群の学生



写真2 ダンス専門群の学生

ブな感想を述べていた。また、「光にもたくさんの種類があつていくらでも表現の方法があるのかと思つた<専>」,「色々なイメージができて世界観に入り込みました<非>」等,両群とも学生たちが多様にイメージを持ちながら色々な表現ができることを実感できたことが伺えるコメントも多くみられた。さらに、「仲間と協力して作品作りに集中することができた<専>」,「いつもより難しかったけど協力してできた<非>」,「自分とは違ったイメージを持って,学ぶことができました

した<専>」等グループのメンバーとの関わりについてのコメントも多数あり,仲間と協力し合いながら創作に取り組んだことが伺える(表8)。このような題材に対するポジティブな感想や題材のねらいを達成できたことを示すコメントは,この題材が学生たちのダンスに対する苦手意識を捨てる(=ダンスに接近する)手掛かりとなり得ていたと推測でき,題材の効果が示されたと読み取ることができる。

一方,「表現するのは難しかった<非>」,「自分のイ

表8 今回の題材を踊ってみた感想

( )内:同一内容回答数

	ダンス専門群	ダンス非専門群
ポジティブな感想	<p>光というテーマの中で創作することが楽しかった。(7) 面白かった。(4) すごく踊りやすかった。(5) 新たな発見もあり楽しかった。(5) 光にもたくさんの種類があつていくらでも表現の方法があるのかと思つた。(6) 新しい動きを見つけることができた。(6) ほんとに自分を解放して踊ることができた。(3) イメージしやすい題材だったので集中できてよかった。 それぞれの光の捉え方は違い個性を出すことができた。(2) 今後の創作にも生かしていきたい。(3) 多くのアイデアが生まれる題材だと感じた。</p>	<p>色々なイメージができて世界観に入り込みました。 いろいろな動きができた。 構成を考えるうちにイメージがどんどん浮かんだ。 光を表現することに抵抗はありませんでした。 今回は今までの授業の中で最も良いものができたと思う。(2) とても気持ち良く踊ることができた。 表現したい雰囲気は作れました。 とにかくあついです!思ったように動くとかダンスにもつながるなと思った。 個人でも少人数でもテーマに対してそれぞれ新しい発想が見つけられてとても楽しかった。 体を全て使って表現することの楽しさを学べて良かった。 光というワードでこんなにたくさんの動きの幅が広がるんだなあと思いました。 思ったよりはよくできたし,見えない光を表現することもできたのでよかった。 闇という場面から繰り出される感じが意外と面白くなってきた。 みんなの発表を見て今までよりもレベルが上がっていた。</p>
仲間との関わり・グループについての感想	<p>相手の光に反応することで会話のようだった。 一緒にやった相手の動きに反応するも楽しかった。 1人ではなくて短時間でグループでやると作品になり楽しかった。(2) グループであると人との関わりができて勉強になります。 1人でやるより3人でやるのが楽しい。 グループで1つの作品みたいなものを作って一体感を感じることができた。 やりやすいメンバーだった。 仲間と協力して作品作りに集中することができた。(2) グループで(…)自分とは違ったイメージを持って,学ぶことができました。(4)</p>	<p>いつもより難しかったけど協力してできた。(2) カノンを取り入れたり,1人ではできない動きもあつてとてもいい作品となった。 思い切ってダンスをすることで達成感と仲間との関係が深まった気がした。 最初は作っていくのにとっても苦労したけどやっていく事にどんどん楽しくなっている意見が出て良かったと思う。 いろいろな表現を盛り込んだもので覚えるのが難しいがやりがいがあった。 みんなで考えるのが楽しかった。 みんなと一緒に1つの作品を作れてよかった。 最初はイメージがつかなかったが仲間と協力してできて楽しかったのでよかった。</p>

表現手法についての感想	<p>キャラを出して踊るとイメージが作りやすく踊りやすかった。</p> <p>闇の中で本当にやってみたい。</p> <p>きっかけをつかむことを学んだ。</p> <p>ダンスと演技が紙一重と言うのを改めて感じた。</p> <p>題材を特徴に合わせるだけでなく、崩しながら表現をするのもとても楽しいと思った。</p> <p>新しい空間が生まれた。</p>	<p>自分の光のイメージはゆらゆらと照らすものだったが速いもの反射するものなどそれぞれの光うまく掛け合わせることで独特な光のイメージを作ることができた。</p> <p>蛍をただのホタルにするのがつまらないと思い、人間らしい蛍の演出を取り入れました。それが面白さとなったと感じた。</p> <p>音楽に合わせてダンスを作るのは組み立てやすかった。</p> <p>自分の光を見つけられるような気がした。</p>
複合的な感想	<p>難しい部分もあったが楽しくできた。(2)</p> <p>目には見えているけれど形のないものを体で表現することが難しかった。うまく想像して行くことで動きをふやすことができました。</p>	<p>難しさはあったが楽しかった。(5)</p> <p>難しかったがイメージを膨らませて自由に踊ることができた。</p> <p>動きやそこからいろんなイメージを膨らませることで難しかったけど少し創作ダンスの印象が変わった。</p> <p>難しかったが実際の景色を思い浮かべやすかったのでまわりに伝わりやすいように協力して作って行くことができた。</p> <p>ダンスにまともりは作れなかったかもしれないけど楽しく踊れた。</p>
自己課題・反省・ネガティブな感想	<p>難しかった。(3)</p> <p>短時間で見ている人にもそのイメージを伝えることができませんでした。</p> <p>自分のイメージをダンスにするのが大変。</p> <p>しっくりこなかった。</p> <p>もっと自由に動けたら…表現の幅を広げたいと思った。</p>	<p>表現するのは難しかった。(6)</p> <p>とても構成部分で難しく感じた。</p> <p>イメージが難しく動きがいつもと同じようながきになってしまった。</p> <p>多くの動きを取り入れることができなかった。(2)</p> <p>より多くの動きを取り入れてバリエーションを増やしたかった。</p> <p>もっと形にとらわれずに空間も自由に使ったらずしてみたかった。</p> <p>もっと工夫ができたなと思った。</p> <p>メッセージ性にかけてしまった部分があり表現力が不足していた。</p> <p>「光」をもう少し広く捉えれば良いと思った。</p>

イメージをダンスにするのが大変<専>」等、題材の難易度についての項目でも述べたように、今回の題材について難しいと感じるコメントも両群にみられ、ダンス経験によらず光をダンスで表現することに対して容易でないと感じる学生がいたことを確認した。

#### IV. 結 論

中学・高校の保健体育教員養成課程をもつ3つの大学の学生を対象に、ダンスが好きになり踊る力を伸ばすための教材として、創作ダンスの題材「闇に光を放つ」を用いたダンス授業を通して、ダンスを専門とする学生とそうでない学生の取り組み方の特徴や違いを明らかにし、この題材の有効性を検討した。

その結果、「闇に光を放つ」の題材から、ダンス専門、

非専門に関わらず、学生たちは様々な光をイメージし、イメージに合う動きを見つける過程で、新しい発想や動き、表現方法等を発見できたと感じている傾向にあった。また、仲間と関わりながら創作し踊ることで、自分の動き方に変化が生まれ、一人ではできない表現ができたと感じる傾向が示された。さらに、今回使用した3種類の曲についての学生たちの捉えかたは、動きやイメージを広げる助けになったと感じる傾向が示され、種類の異なる曲を複数提供することの効果を確認することができた。ダンス経験者による特徴的な結果としては、ダンス専門の学生は非専門の学生より光のイメージに集中して踊り、使用曲を創作活動に活用している傾向がみられた。

総じて、今回の題材を通じてダンスの専門、非専門に関係なく、題材のねらいについての学生自身の自己

評価(ねらいに関する質問結果)が高い値を示す傾向がみられ、また多くの学生が、新たな発見があった、楽しかった、面白かった等ポジティブな感想を持っており、題材を体験した学生の意識からみたこの題材の有効性が示唆される結果を得られた。

今回は学生の題材体験後の意識を中心に調査したが、今後の課題としては、実際の活動の様子から学生自身の踊る力が伸びたかどうかを測る手法についての検討、題材の中で学生が難しいと感じた具体的な部分や場面の指導、使用曲の活用方法についての検討等が挙げられ、今回得られた結果を含め、引き続きこの題材の有効性を検証していく必要性が確認された。

## 注

- (1) 全国ダンス・表現運動授業研究会の前身である日本女子体育連盟授業研究グループでは、幼・小・中・高・大学の各発達段階において、創作ダンスの指導法や題材の実践的研究を行い、課題選択の柱に基づく題材の有効性を示しており、日本女子体育連盟紀要'98-1<sup>1)</sup>では指導言語を中心に各発達段階での実践報告がなされている。本研究ではその中の柱のひとつ「主題(イメージ)」から題材を開発した。
- (2) 中学校学習指導要領解説の創作ダンスの題材例には、身近な生活や日常動作、多様な感じからイメージをとらえて表現するイメージの題材が挙げられている<sup>2)</sup>が、「闇に光を放つ」は大学生レベルの題材として、具象的なものから抽象的なものまで広がりのあるイメージや表現を引き出すことを意図して設定した。また、中高生の初心者には、恥ずかしさを感じないで動くためにもスピード感やメリハリのある課題から導入することが推奨されているが、本実践では、ゆっくりとした動きを中心としてイメージからレッスンを引き出す時間を中高生の授業よりも長めに設定している。以上のことから、この題材は、中高生の基本的な題材として推奨されている「しんぶんし(=ひと流れを学ぶ題材)」、「走る-止まる(=メリハリを学ぶ題材)」、「走る-跳ぶ-転がる(=ダイナミックな表現を学ぶ題材)」、「スポーツいろいろ(=デフォルメ、レッスンを学ぶ題材)」<sup>3)</sup>等を学んだ後に導入する題材と想定している。

## 引用文献

- 1) 松本千代栄, 松本富子, 高野章子他(1999)資料 分析の基準, 日本女子体育連盟紀要'98-1, 日本女子体育連盟: 255.
- 2) 松本奈緒(2017)大学保健体育教員養成課程の創作ダンスの授業における学習者の認知-「課題学習」から受講生は何を学ぶのか-, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要39: 37-46.
- 3) 宮本乙女(2011)単元計画の立て方と単元例: 明日から

- トライ!ダンスの授業(全国ダンス・表現運動研究会編), p.148-151, 大修館書店, 東京.
- 4) 宮本乙女, 松山善弘, 松澤慶信他(2017)中学校・高等学校における, ダンス指導に有用な映像コンテンツの開発, 日本女子体育大学紀要47: 101-113.
  - 5) 宮本乙女, 中村恭子(2015)体育系大学における中学校ダンス必修化に対応したダンス指導法授業の検討: ダンス指導法授業を受講した学生の意識の変容を通して, 日本女子体育大学紀要45: 141-153.
  - 6) 宮本乙女, 鈴木直樹, 中村なおみ他(2015)探る, 伝える問いかけ~観る力・踊る力・引き出す力~, 第49回全国女子体育研究大会東京大会紀要: 111-126.
  - 7) 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説保健体育編, p.120, 東山書房, 京都.
  - 8) 中村恭子(2011)ダンス学習の内容と方法: 明日からトライ!ダンスの授業(全国ダンス・表現運動研究会編), p.140-143, 大修館書店, 東京.
  - 9) 柴真理子, 塩瀬順子(1990)創作ダンスへの接近の構造-小学校教員養成課程における「舞踊課題」学習を事例として-, 神戸大学教育学部研究集録85: 107-121.
  - 10) 高野美和子, 笠井里津子(2013)体育系大学における創作ダンス課題学習法の実践と成果III-課題「7モーティヴス」の実践-体育大学1年生(男女)を対象に-, 日本女子体育大学スポーツトレーニングセンター紀要16: 9-18.

## 参考文献

- ・舞踊文化と教育研究会編(2010)ダンス学習とイメージ用語: 松本千代栄撰集第2期研究編1, p.242-274, p.291-299, 明治図書出版, 東京.
- ・舞踊文化と教育研究会編(2010)ダンス学習とイメージ用語: 松本千代栄撰集第2期研究編2, 明治図書出版, 東京.
- ・三浦弓枝, 矢島ますみ(1991)創作ダンスのイメージ表現プロセスと指導法の確立(2): イメージ展開プロセスの明確化にむけて, 日本体育学会第42回大会号: 822.
- ・三浦弓枝(1992)創作ダンスのイメージ表現プロセスと指導法の確立(3): イメージ形成段階の指導について, 日本体育学会第43回大会号: 893.
- ・中村恭子, 宮本乙女, 中村なおみ他(2011)明日からトライ!ダンスの授業, 大修館書店, 東京.
- ・矢島ますみ, 三浦弓枝(1991)創作ダンスのイメージ表現プロセスと指導法の確立(1): イメージ表現の学習の捉え方と指導の関わり, 日本体育学会第42回大会号: 821.

(平成29年11月27日受付)  
(平成30年1月17日受理)

